

山口地区公共施設クリーンアップ作戦

河川

平成元年七月、この年から清掃作業は始められました。当初は「河川愛護月間」としてスタートしました。七月は建設業界は時期的に仕事に余裕ができるので、社会に対して何か出来ないかと考え、河川の清掃を始めました。ボランティア活動が建設業のイメージアップにも繋がればいいのではということで続けられ、三年後、小郡地区も加わり、「公共施設クリーンアップ作戦」として現在まで続いています。

さて、平成十一年七月二十二日、山口エリアは新鰐石橋付近の樫野川、小郡エリアはふしの河川公園、そして今回、山口きらら博開催地の阿知須町も加わり、それぞれで河川の清掃が行われました。山口エリアでは七時五十分、石山副支部長のあいさつの後、一斉に何十台もの草刈機のエンジンが動き始め、二百三十人の参加者は二メートル丈はあろうかと思われ草を刈り取ります。思わず騒ぎに無数のト

ンボも飛び出す蒸し暑い陽射しの中、二時間で作業は終わり、ダンパーカー二十六台が現場と草処理場の間をピストン輸送しました。「今

草のにおいがします



道路

平成十一年十一月十五日、山口市、秋徳町、小郡町、阿知須町で歩道、道路などを清掃する「公共施設クリーンアップ作戦」が行われました。

参加者は山口県建設業協会山口支部の他、山口土木交友会、県造園建設業協同組合、県測量設計業協会などに所属する建設業者ら三百五十人の人達が集まりました。そのうちの山口市エリアでは、県と市から十人の手助けに



雨の中で作業は続く



朝九時、小雨の降る中、長田支部長あいさつの後、すぐに作業が開始され、二時間程度かけて空き缶、ごみ、落ち葉などを拾い集めました。支部長は「雨が降るので作業効率下がりますが、足下に気をつけて作業してほしい。」と話し、自らも作業に精を出していました。作業参加者からは「大人数で一斉にやると、一度にきれいになるので気持ちいい。いつもの作業と違って目線を変えてみるのもいい経験になります。」と言ったお話を聞くことができました。回収されたゴミはトラックに積まれ、まとめて各市町のごみ処理場で処分されました。

防府地区防府徳地環境美化推進協議会

美しいまちづくりを目指して

平成十一年十二月十九日に防府で開催の「防府読売マラソン」と、二〇〇一年に開催の「山口きらら博」に備えて、道路、公園などの公共施設の清掃作業が行われました。快晴の朝九時、防府スポーツセンター・玄関前広場に集まった四百五十人の参加者は揃いの黄色いウインドブレーカーに身をつつんで、「いざ出陣」の体制です。

に、一緒に汗を流しましょう」と呼びかけ、松浦防府市長、伊藤徳地町長、島田県会議長らの激励を受けた参加者はマラソンコースを中心に、空き缶、吸い殻、ゴミなどを拾ったり、道路脇の草刈りなどに汗を流しました。

「昨年からは、環境美化意識を高め、街を美しくすることを目的に団体を構成して始めました。揃いの黄色いウインドブレーカーは市民の皆さんに見てもらい、美化意識に目覚めて欲しいという思いもあります。」とのこと。集められたゴミ、草は百三十台のトラックで、防府クリーンセンターへ搬入され処理



されました。作業は昼前まで続けられ、終わった所から随時解散しました。「天気も良かったのではかどりました。草も刈りましたので、マラソンでは沿道で応援する皆さんにも喜ばれると思います。」と事務局でもその成果を喜んでいました。



「まちをきれいに」と呼びかけて



防府読売マラソン
実業団や一般市民ランナーが、毎年、師走に健脚を競うレースで、防府市陸上競技場をスタート・ゴールとし、市内を周回する42.195kmの公認コースで行われる。

長沼会長（防府土木協会会長）が「街をきれいにするため



まずは一同に集まって



それぞれの持ち場で汗を流す



防府読売マラソン